検税使大伴卿の、筑波山に登る時の歌一

首　并せて短歌

一七五三番

衣手　常陸の国の　二並ぶ　筑波の山を　見まく欲り　君来ませりと　暑けくに　汗かきなけ　木の根取り　うそぶき登り　峰の上を　君に見すれば　男神も　許したまひ　女神も　ちはひたまひて　時となく　雲居雨降る　筑波嶺を　さやに照らして　いふかりし　国のまほらを　つばらかに示したまへば　嬉しみと　紐の緒解きて　家のごと　解けてそ遊ぶ　うちなびく　春見ましゆは夏草の　繁きはあれど　今日の楽しさ

反歌

一七五四番

今日の日に　いかにかしかむ　筑波嶺に　昔の人の　来けむその日も